

## 2014 年度 一般社団法人日本社会福祉学会 学会賞（奨励賞） 受賞に寄せて

学会賞審査委員会による審査の結果、2014 年度の学会賞が決定し、第 62 回秋季大会期間中の 2014 年 11 月 29 日に、早稲田大学早稲田キャンパスにおいて授賞式が行われました。奨励賞として、単著書部門からは高瀬幸子会員（帝京平成大学）、論文部門からは上村勇夫会員（日本社会事業大学）が選ばれました。

尚、学術賞は「該当者なし」でした。

受賞された方々からの喜びの声をお届けします。



左側より古川委員長、大友委員、上村会員、岡部委員、高瀬会員、鬼崎委員、福山委員、牧里委員

### ◆ 奨励賞（単著書部門） 高瀬 幸子

**受賞作：「在宅高齢者へのソーシャルワーク実践：混合研究法による地域包括支援センターの実践の分析」**

**（明石書店、2013 年 11 月 30 日発行）**

この度は、社会福祉学会の奨励賞という荣誉ある賞をいただき、大変光栄に思っております。選考委員の先生方には、丁寧に読んでいただき、また講評を通して貴重なご指摘をいただけたことは大変有難く、深く感謝しております。

拙著は、博士論文を修正加筆したものであり、この研究は私の大学病院での医療ソーシャルワーカーとしての経験が出発点となっています。

私は、病院の実践の中でソーシャルワーカーとして「何かとても大切なこと」に関わっているという実感はありつつも、それを他職種をはじめとする他者に伝える難しさを感じていました。ソーシャルワークが単なる親切やおせっかいではなく、専門的援助たるためには、専門職としてどのようにニーズを捉え、それに対してどのように関わるかという一貫した説明ができなければならないと思います。つまり、理論に基づくということだと思います。ソーシャルワークの実践と理論は一体であるはずでありながら、なかなかそのつ

ながりが見えにくいことに、もどかしさを感じていました。

本研究は、現場で実践されているソーシャルワークを理論に基づいて言語化することによって、実践と理論をつなぐことを試みました。すなわち、エコロジカル視点というソーシャルワーク理論を用いて、地域包括支援センターのソーシャルワーク実践を捉え直しました。この試みが一つの形となったことは、現場のソーシャルワーク実践が決して理論から乖離したものではないことを示しているのではないかと思います。

私の研究はまだまだ緒に就いたばかりです。今回の受賞は、今後ますます研究に励むようにという激励のメッセージをいただいたと思っております。これからも現場のソーシャルワーク実践の根拠となるような研究を積み重ねていけるよう、努力を続けたいと思います。

最後に、拙著は大学院在学中に研究指導を下された先生方、研究に協力して下さった地域包括支援センターの方々、そして何よりもご自身のことを丁寧にお話して下さった高齢者の皆様のお力でできたものです。この場をお借りして、改めて深く感謝を申し上げます。

#### ◆ 奨励賞（論文部門） 上村 勇夫

**受賞作：「知的障害者と共に働く特例子会社の一般従業員の支援実態と困難感」**  
**（『社会福祉学』第54巻1号掲載、2013年5月31日発行）**

この度は、奨励賞をいただきまして誠にありがとうございます。ひとえに皆様のご指導とご支援の賜物と心より厚くお礼申し上げます。今回「この調子でもっと頑張りなさい」と背中を押していただき、今まで取り組んできた研究の意義が実感できたことによる達成感に包まれるとともに、今後より精進していかなければならない使命感に武者震いする思いです。

拙稿は障害のある方が雇用されている企業での様々な苦勞を分けていただいたことにより完成いたしました。私は特に特例子会社で障害のある従業員とともに働く一般従業員による支援のあり方とその困難感に着目してまいりました。拙稿を作り上げるまでの過程において、研究に協力していただいた皆様のリアリティを崩さないことと、少しでも現場の役に立つ知見を創出することを心がけてまいりました。

本賞に伴いいただきました講評においては、社会福祉学研究において未だ蓄積の少ない障害者雇用の課題に着目した先鞭性と、着眼点を障害者本人ではなく一般従業員に置いた開発性をご評価いただきました。実際に企業に身を置く中で感じてきた仮説を研究論文として形にしてきた私といたしましては、上記のような点を評価していただきましたことは

何よりも励みになりました。今後も現場と向き合う中で少しでも貢献できるような実践的な研究姿勢を大切にしていきたいと強く感じております。また一方で、得られた知見が予測の域を出ないといった課題もご指摘いただきました。今後さらなる研鑽を積み研究としての精緻化を図ってまいります。

最後になりましたが、お忙しい中アンケート調査にご協力いただいた企業の方々、そして拙稿を完成させるにあたり多大なるご指導を賜りました佐藤久夫教授、植村英晴教授に心より御礼申し上げます。そして研究生生活を快く支えてくれた家族、特に妻にはこの場をお借りして改めて深く感謝の意を伝えます。